

■正答

1 B

2 (例) 多摩川に自然がもどり、アユが川を上るようになった。(二十五字)

(例) 多摩川は以前のすがたにもどりつつあり、アユは象徴的存在だ。(二十九字)

2 1 ⑦、⑧ (完全解答)

2 (例) (齋藤さん) が感じたこと(十字)

(例) (齋藤さん) の気持ち(八字)

3 (例) (教室に) 来る (教室に) 来ます に直した方がいい

と思うよ。

※ 「教室に」を書いて正答とします。

■考え方

1 「見出し」は、記事の内容の中心を短い言葉で表したものです。「アユの川」という言葉は、日社だけが使っています。新聞を読むときは、見出しと書き手が伝えたいことをつながりを考えながら読むことが大切です。

2 二つの文章を読み比べるときには、書き手の意図を考えながら読みましょう。書き手の意図をとらえるためには、それぞれの文章に共通しているところと、違うところをまとめながら読むことが大切です。

2 1 自分の経験や考えを書いたメモから、それぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいかを考え、整理して書くことが大切です。

2 文章全体の構成や内容を考えるため、集めた情報を整理し、伝えたいことを分かります。

3 本文章の文末は「です」「ます」「ます」などのていねいな言い方で終わっています。ですから、「来る」ではなく、「来ます」が正しい表現です。

取り組んでみよう!

○ 次の文は、地域の人や保護者に学芸会の案内をする手紙の一部です。ア、イに入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

学芸会に向けて、ぼくたちは心を合わせて歌や劇の練習にア。

たくさんの方でイなので、ぜひお越しください。

- 1 ア はげんでいらっしやいます イ みてもらいたい
- 2 ア はげんでいます イ みてもらいたい
- 3 ア はげんでいらっしやいます イ みていただきたい
- 4 ア はげんでいます イ みていただきたい

番号

[ ]

答え

[ B ]